

ようよう めくうなってきたね～
春の気配が しょう まっこと 嬉しいちゃ～

2015春号

平成27年4月1日発行 No.9

NPO 元気おおとよ新聞

発行元：特定非営利活動法人 元気おおとよ <http://www.genki-otoyo.org>

都市と農村



最近、移住という言葉をよく耳にするようになりました。

それは主に、都市から農村に向けて移り住む人たちを指して使われているように思います。しかしよく考えてみると、戦後70年の歴史は農村から都市への移住の歴史でもありましたし、その移住の歴史は様々な農村のしがらみから抜け出し、自由で高い所得を得て便利な生活をするという夢を都会で実現してきました。

しかし、そのことは自然から遠ざかり人の絆や助け合いを忘れてきた歴史でもあったのではないのでしょうか。実現した夢が人にとって豊かな生活なのか？本当の豊かな生活は農村にこそあるのではないかと考えるような人々が現れ始めました。

都会は自由で人目も気にせず生活できるが人のつきあいは希薄で自然がない。田舎では人は助け合って生きているが人の目を気にして生活しなければなりません。言い換えれば都会は他人に干渉されずに成り立って来た社会、田舎は干渉しあってきた社会でした。

今こそ都会からの移住者を積極的に受け入れ、都会の良さと田舎の良さを融合させたプライバシーは尊重されるが助け合って生きてゆけるような新しい価値観を作り上げれば、住みやすい農村となり人は集まるのではないのでしょうか。

移住者と我々が協力し合って新しい町づくりをすすめましょう。（渡辺則夫）

大豊ココがエイ！

よく地域住民の方から、「大豊のどこがエイが？なんちゃあ、エイとこないで」という声を耳にします。しかし、一方でよそから来られる方からは「大豊っていいところですね」とよく言われます。

道の駅大杉に勤めて1年弱。観光客と触れ合う中でたくさんの大豊町の魅力に気づかされました。

もちろん、田舎は便利さでいうと都会と比べればいいとこなし。でも、都会は便利な分、失っているものもたくさんあるんです。自然や、文化、人との繋がり、心のゆとり。

私が大豊町に帰ってきて感じる事は、この町には都会では失われたはずの「昔」がまだ沢山生きている。という事。

私は声を大にして訴えたい

「知っちゅう？ホントは大豊町にエイとこいっぱいあるがで。みんなの暮らしの中にどっさり潜んじゅうがやき！」（猪野孔太）



おおとよガレット出店情報

4月5日（日）10：00～16：00
第1回ヒトマルシェ（四国中央市）

4月19日（日）11：00～16：00
コトコト周年記念イベント（土佐山田）

4月26日（日）
美桜の里ジャズフェスティバル（岩原）

5月2日（土）
ゆとりすとパークおおとよ

5月16～17日（土日）
ヴィレッジ2015（鏡川みどりのひろば他）

5月24日（日）
お山の手づくり市（本山町）



田舎の「技」を学ぶワークショップ開催！

田舎の生活に根付いた様々な「技」は、大豊で暮らす私たちには当たり前でも町外（都会）に暮らす人々には驚きの技術だったりします。元気おおとよでは、町内外の方々との交流の場として田舎の「技」を学ぶワークショップ（体験型学習）を随時開催していきます。ぜひ一緒に楽しみましょう！

●4月4日（土）9:00～16:00 梶ヶ森レーベン
「炭焼き&しいたけコマ打ち体験」 大人2,000円 小学生1,200円

●4月19日（日）9:00～16:00 梶ヶ森レーベン
「炭だし&ピザ焼き体験」 大人2,000円 小学生1,200円

＜お問い合わせ・お申し込み＞ 080-5095-6451 太田まで
またはホームページ <http://genki-otoyo.org/workshop/>

遊びに
来てね～

元気おおとよが「おおとよガレット」をつくる理由



元気おおとよが「おおとよガレット」の販売を始めて早1年が経ちました。
昨年1年間は、嶺北および高知県内・徳島県・愛媛県と様々なイベントに出店して「おおとよ」と「ガレット」の知名度を少しでも上げる努力をしてきました。
「おおとよガレット」が果たしていくべき役割は、「大豊」を知ってもらい興味を持って「大豊」に来てもらうことです。

高知市内のイベントなどに出店した時などは、お店の屋号に「おおとよ」がついているので、「大豊から来たが？遠いところを」「大豊に（こんなおしゃれな）お店があるが？」など、まず驚きのお声をよく聞きます。

そして帰りがけには「（しみじみと）頑張ってるね」と励ましの言葉をかけてくださいます。大豊は遠くて不便な山奥の町というイメージが強いのでしょうか。そんなイメージを払拭し、なんだか楽しいことをやってる元気な町、遊びに行きたい近場のお山、というイメージに変えていきたいものです。（野田由美子）

フラッグダッシュ ～雪合戦奮闘日記～

スポーツ雪合戦とは...フォワード4人、バックス3人の7人で雪玉を投げ合い、より多くの敵を倒すか、相手のフラッグを抜いたチームが勝利する日本発祥のスポーツ。
1月25日に祖谷で開かれた雪合戦四国大会にチーム大豊ビックリッチが出場した。。。



「ピィィィィィ！！！！！！」
コート中に大きな笛の音がコダマした。緑ヘルメットの審判員が頭上で片腕を大きく振り回している。フラッグ奪取の合図だ。相手コートの中には無数の雪玉をかいぐり、敵を圧倒して天高く敵の旗を抜き上げた勇者の姿があった。
それはスポーツ雪合戦では花形ともいえるリスク・難易度共に最高レベルの技。フラッグダッシュだ。
大豊ビックリッチの二回目の対戦相手は個々のフィジカル（身体能力）がリーグ内トップの福山平成大学。しかし、雪合戦ではフィジカルよりも戦略と連携が勝敗のカギとなる。

大豊ビックリッチはメンバーの能力と個性に合わせて配置や戦略を立てた。最前線には運動神経抜群のジュンちゃん、判断力と度胸のあるカズヤさんのツートップ。援護に乱射好きのキョウヘイ。2シェルに遠投が得意なケンタ君をスナイパー配置。補給係は指示上手のダイスケと気の利くケン君。遊撃手として純粋に雪合戦を楽しむコレユキさん。
第一セット残り1分。それは起こった。5対4でこっちが有利。

「一か八かもう突っ込むしかない！」
しびれを切らした相手チームの背番号2番が突撃してきたが、皆で集中砲火し、これを防いだ。
「今だ！ フラッグダッシュ！」
ジュンちゃんがシェルを飛び出し、その後ろにコレユキさんが援護に続く。
「させるかあ！」
1シェルで待ち構えていた相手の球がジュンちゃんめがけて飛んできた。判定は？
「セーフ！」
相手は自分たちのフラッグが抜かれるのをただ見ていることしか出来なかった。
「ピィィィィィ！！！！ フラッグ奪取！！ 第一セット終了！」
「やったあああああ！！やったぞお！」

その後、大豊ビックリッチは実践不足が目立ち、敗北してしまったが、チーム全員確かな手応えは感じていた。いつか来る全国大会出場を夢見て...彼らの挑戦は続く！（猪野孔太）



コラム フェイス to 地球温暖化

地球温暖化に関して、これまで主に新聞記事や雑誌の紹介を行ってききましたが、テレビでもよく取り上げられるようになりました。番組案内で調べて、できる限りDVDに録画していますが、今年3月に大きな特集番組が登場しました。
制作はアメリカの放送局で2014年に番組化したものです。放送時間45分で全9回シリーズ、題して「シリーズ 危険な時代に生きる」。ハリウッド俳優（ハリソン・フォード、アーノルド・シュワルツェネッガー、ドン・チードルなど）や、ピューリッツァー賞記者などの著名人が、アメリカそして世界で気候変動や環境破壊に見舞われている現場に赴き、最新の状況をルポする番組です。この原稿を書いている今までに、①乾く大地、②森がなくなるとき、③高潮に揺れる町、④氷と業火、以上の4作が放送されました。
内容、映像ともに迫真感のある充実したもので、登場する有名な俳優も演技ではなく、一人の人間としての態度でルポに当たっていて好感が持てました。

その中で、以前にもこのコラムに書きましたが、一つの現象例として次のような内容を述べていたのが印象に残りました。
「温暖化が干ばつを生み、その場から追い立てられる住民を生む。そして戦争が起きる。」。
いつか、他の録画作品とあわせて自由に観ることのできる機会や場を作ったり、講演やシンポジウムのような取り組みができたらと考えています。
最後に、2014年12月17日の高知新聞の記事を紹介してこの温暖化コラムはしばしオヤスミとさせていただきます。
ペルーで開かれた気候変動枠組み条約の第20回締約国会議（COP20）は、各国が定める温室効果ガスの削減目標に関する基本ルールに合意した。
…ただ今回も、先進国と途上国側との溝は埋まらなかった。
…次世代を温暖化の悪影響から守るには、何より「結果」が必要だ。先進国、途上国を問わず、この認識にたって今後の交渉を進めなければならない。（鄙）